

エクストリームシリーズ 2017 奥大井大会

■奥大井大会 3名カテゴリー 優勝チームコメント

スパモニ探検隊 鈴木 篤さん

スパモニに見るアドベンチャーレースの楽しみ方の一端

スパモニ探検隊がエクストリームシリーズを走るようになって3年(四国大会には10年連続参加となりますが)、初めて年間優勝となりました。

この成果には過去の記録とは異なる意味合いがあると思います。

それは、スパモニが「メンバーを固定しない多人数制」であり、「競技の普及を目指して極力ビギナーさんを入れる」というチームだからです(少なくとも今年までは)。そのようなチームが安定的に良い結果を出せたということは、手前味噌ながら意義深く、面白いことだと捉えています。

スパモニが証明したものが、悩めるアドベンチャーレーサーの一助になることを願って、以下を記させていただきます。

「悩めるアドベンチャーレーサーたちの『あるある』」

A君がアドベンチャーレース(以下AR)に出たいと思ってBさんとC君を誘いました。3人は仲良く楽しみましたが、次のレースにC君が来られなかったため、A君は新たにD君を誘いました。ところが、その次のレースは全員が参加を希望したため、A君はやむなくD君を断りました。チームから外される形になったD君はその後…

アドベンチャーレーサーで、こうした経験を持つ人は多いのではないのでしょうか？

チーム競技であるが故に「出たくても仲間が揃わない」「ようやく揃っても安定的に続かない」「新しい人が出たがって来ても枠が空いていない」「ようやくアドベンチャーレーサーらしくなったと思った仲間がやめてしまう」といった状況です。

そうした中、現在のスパモニが採っているのが冒頭の「多人数制」と「ビギナー歓迎制」で、概ね以下のような流れとなっています。

- ①まず自分たちが「メンバーを固定しない」「競技の普及という目的を持っている」チームであることを認識する。
- ②揃ったメンバーは、出来る限り知り合いなどを呼び込み続け、来てくれたビギナーさんにはARを満喫できるようにベテランが付く。チームのベテランが分散するので勝つことは難しくなるが、ここは我慢。
- ③ARの楽しさを知ったビギナーさんにも仲間を呼んでもらう。
- ④ビギナーさんがレーサーとして育ったら、今度はチームを率いる立場になる。

以上により、スパモニで続けている人は必然的に「ベテランのレース展開」を学べて、やがては「レーサーを育てることも出来るベテラン」へと成長していき、全体の仲間も増えていく訳です。

そして、大一番という時はベテランが集まると間違いなくいいチームになります。チームを率いることのできるレベルのメンバーが集まれば当然でしょう。実際、スパモニのベテランチームは派生母体であるEASTWINDにさえも勝ったことがあります。

これは単純に幸運であっただけかもしれませんが、スパモニには上記の流れを楽しめるメンバーが少なからず集まりました。「残った」と言えるかもしれません。

例えば、武田光先輩と米田英昭君は会社の上司や後輩を巻き込み、山本淳史君は多くのオリエンティアを引き込み、鹿野颯太君は山で知り合った人を勧誘したり医師の後輩たちを誘い、横尾和広君はトレラン仲間を集めてチームを作るなどしました。新隆徳先輩はしばしばチームを率いて下さった上に、所属のクラブチームでオリエンテーリングを学びたいメンバーの受け皿になってくれています。

もちろん、今の形にも課題や問題はありますし、辛かったり悔しい思いをすることも多々あります。

ですが、ほぼ毎回ビギナーさんがいるチームが、ほぼ毎回複数のチームを編成できて、そして上位に食い込み、今年はずいに年間優勝も出来たことは、一つの示唆的なものに成り得ると考えます。
宜しければ是非、真似てもらえたなら幸いです。

何より、スパモニで走ったレーサーは 40 人以上におよび、述べ参加者は 170 人以上になります。好きな競技の愛好者を増やし、大会の運営(収入)に貢献できて、自分自身も多くの仲間を得られることは、大きな喜びです。